

大学の世界展開力強化事業（令和元年度選定）中間評価結果

大 学 名	○豊橋技術科学大学、宇都宮大学、千葉大学
整 理 番 号	2
事 業 名	近未来クロスリアリティ技術を牽引する光イメージング情報学国際修士プログラム

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) <b style="font-size: 2em;">A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント) <p>本事業は、クロスリアリティという先端技術をテーマにしたプログラムであり、ヨーロッパにおける industry4.0 そして日本における Society 5.0 を見据えつつ、人間の知識、経験、能力を強化する XR をそれぞれの大学が持つ強みを連動させ、日 EU 双方に寄与する実践的なカリキュラムを実施している。</p> <p>プログラムの運営にかかわる AMB と QAB のもとで QASPH というハンドブックを明文化した取組や、豊橋技術科学大学の学生のために学則改正を行い、本プログラム参加者の標準修業年限を 2 年 6 ヶ月として参加しやすい環境を整備した点は評価できる。また、渡航支援については世界展開力推進室の専任スタッフが行き、受入学生の支援に関しては、他の留学生と同様の支援体制を提供するとともに、在籍学生をサポーターとして配置し、学生 1 名に教員 1 名を指導教員として配置している点も評価できる。アジア諸国との連携でも一定の実績をあげているとのことから、その実績を十分に活用しつつ、本事業の今後の展開に繋げていただきたい。</p> <p>一方で、4 大学がマルチディグリーを発行する意義、この学位を取得する学生のメリットが分かりづらい。また、アソシエートパートナーである千葉大学と宇都宮大学の果たす役割が明確でなく、国内連携大学との間で、プログラムをさらに発展させるという意図があまり見られない。さらに具体的なインターン事例についての説明も不十分であったため、その詳細な説明と、グッドプラクティスの学内・学外への共有が強く望まれる。</p> <p>最後に、今後も本事業終了後の継続的な実施を見据えた事業計画の策定と安定的な財源確保に努め、学内及び関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進とともに、将来の我が国と相手国の大学間交流の更なる促進と発展に向け、引き続き積極的な事業展開に取り組まれることを期待する。</p>	